



エキスパッカーN工法を用いて進められている既設防潮堤の耐震補強工事

日特建設は、発生懸念が高まっている南海トラフ巨大地震や首都直下型地震への対策で今後需要

# 防災・耐震分野に力

## のり面補強技術生かす

日特建設

が見込まれる防災・耐震分野に力を入れる。対応技術として、主力ののり面分野では既設コンクリート吹き付け面をはつり取らない補修・補強技術「ニューレスプ工法」や、1000以上の長距離圧送を実現する高強度モルタル吹き付け技術「キロ・フケール工法」を用意。地盤改良では大容量・急速施工の注入工法「エキスパッカーN工法」などをそろえている。

来年度にスタートさせる中期経営計画「Step III」(14～16年度)では、同分野ではコストダウンを図り、汎用性を高め

は、防災・耐震分野を成長戦略の一つに列挙。得意とするのり面や地盤改良などの技術を生かし、シェア拡大を目指す方針だ。

のり面分野は、同社が手掛ける工事の約半分を占める主力事業。今後の市場動向について、山田浩常務執行役員技術本部副本部長は「新設から補修や補強、古いストックをどう維持するかに需要が移行しつつある」とみ

たニューレスプ工法の採用件数がここ2～3年で倍増。施工実績は30件に上る。キロ・フケール工法は、通行止めが難しい道路沿いの斜面やトンネル覆工など、施工条件の厳しい場所を中心に9件の実績がある。

一方、地盤改良分野は、既設構造物直下の地盤強化に有効なエキスパッカーN工法を用いた液状化対策が好調。都市部の構造物が錯綜(さくそつ)する場所では、「機械の小型化や機動性が求められている」(山田常務)として、施工条件に合った工法や機械の開発も進める。

国土交通省が主導する全国の道路、トンネルなどの老朽インフラの総点

検が14年3月末に完了すると、必要な対策工事の発注が始まると見込まれている。同社はそうした需要も取り込み、のり面地盤改良分野でさらに存在感を高めていきたい考えだ。